


表現英文法

The Advanced Version



田中茂範

はじめに

本書は、「わかる、使える英文法 標準版」に続く、英文法の上級版になります。内容的には、名詞形（冠詞問題）、分詞、仮定法、wouldとcouldの用法、shouldとmightの用法、分詞構文、副詞の働きなど16の文法項目をカバーします。ここでも力点は、「わかる」と「使える」の2つになります。

どんな文を取り上げても、文法が関与しないものはありません。「文法の血が流れている」のです。そこで、英語力を高めるために文法力は不可欠です。文法力は、文法について知っているという「文法知識」と同一ではありません。例えば、feelingとa feelingの違いは何か、両者をどう使い分ければよいのか、こうしたことが分かること、そして必要に応じて使い分けができること、これが文法力です。「feelingは抽象名詞だ」「抽象名詞はaを付けない」といった知識だけでは、feelingとa feelingを使い分けられません。同様に、小説などで過去に言及したwouldの使用が目立ちますが、その働きを理解できることが、英文の読解につながるのです。

松尾芭蕉の有名な俳句「古池や 蛙飛び込む 水の音」の英訳は複数個あります。ここでは、ドナルド・キーンとラフカディオ・ハーンによるものを比べてみましょう。

1. The ancient pond / A frog leaps in / The sound of water (Keene)
2. Old pond / Frogs jumped in / Sound of water (Hearn)

「古池や」の部分からthe ancient pondとold pondの違いがみられます。定冠詞を使うか、無冠詞のまま池を表現するか、そして、ancientとoldの形容詞の選択がそうです。そして、a frogという一匹の蛙に対して、frogsという複数の蛙、leaps inという現在単純形に対して、jumped inという過去単純形の違い、さらに、「水の音」もtheという定冠詞を付けるかどうかの違いがあります。これらは、すべて文法的な違いです。この文法的な違いは、当然、意味の違いを反映させています。

ハーンの英訳の個人的な解釈を試みると、次のようになります。静寂の時の流れを象徴した「古池」なるもの（old pondによって池の形態をも捨象されている）が前景化され、そこに、蛙が池に「飛び込んだ」という現実世界の出来事が描写されています。6月といえば、蛙たちの繁殖期、a frog leaps inではなく、frogs jumped inとすることで、蛙たちが次々に飛び込むという生の躍動さえ感じる表現になっています。そして、sound of waterによって、悠久の時の流れにフェイドアウトする状況が描かれています。

このように文法は、英文を鑑賞する上で決定的に重要だ、ということです。本書は、オンライン授業と併用で利用いただけます。わかりやすい文法講義と演習を心がけますが、理解を定着させ、使えるようにするためには、本書を徹底的に読み込むことをお勧めします。

田中茂範

Table of Contents

- Unit 1 名詞の形①
- Unit 2 名詞の形②
- Unit 3 would/ could
- Unit 4 should/ might
- Unit 5 過去完了形
- Unit 6 分詞構文
- Unit 7 仮定法①
- Unit 8 仮定法②
- Unit 9 話法
- Unit 10 関係詞節：応用編①（非制限用法）
- Unit 11 関係詞節：応用編②（関係副詞）
- Unit 12 受動態：応用編
- Unit 13 分詞：doing & done
- Unit 14 副詞：修飾機能
- Unit 15 副詞：情報表示機能①
- Unit 16 副詞：情報表示機能②

Unit 1 名詞の形

英語では、話し手が思い浮かべる対象がどのようなものであるかによって名詞の形（名詞形）が異なります。名詞の形は、APPLE を例として示すと以下のように5種類になります。

名詞の形

an apple apples apple the apple the apples

日本語の表現の仕方と比較してみましょう。

日本語

リンゴをひとつください。
リンゴをたくさん買ってきてね。
リンゴをカレーに入れよう。

英語

Give me an apple.
Be sure to buy me a lot of apples.
Let's put some apple in the curry.

日本語では、対象が丸ごとのリンゴでも、複数個のリンゴでも、細かく切ったリンゴでも、「リンゴ」は「リンゴ」です。しかし、英語では、ここで示した状況で an apple、apples、apple の3つの名詞形を使っています。

名詞形

an apple と apple は違う名詞形
→ 指す対象が異なる

an apple

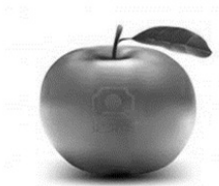


apple



名詞の複数形

an apple



apples



もちろん、一個のリンゴは an apple で、複数個になると apples となります。ここまでは、了解済ですね。しかし、apple という名詞形を使うことがあります。上図のように摺り下ろしたリンゴだとか、サラダに入れる細かく切ったリンゴは apple となるのです。

I put some apple in the salad.

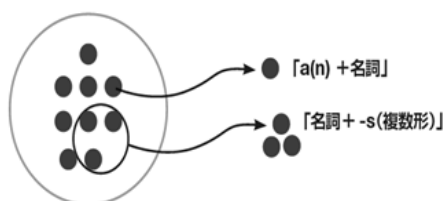


同様に、「卵」も「卵を割る」は crack an egg と an egg ですが、「ネクタイに付いている卵」は You have egg on your tie. となります。

ここで押さえておきたいのは、「a + 名詞」や「名詞の複数形」といった名詞形はどのような場合に使うのかということです。一言でいえば、「単一化」という原理がそれを説明します。

使用原理：単一化

対象の「単一化(対象を取り出すこと)」が可能な場合で、ひとつの対象を指すときには「a + 名詞」が使用され、複数の個体が想定される場合には「名詞 + -s」(複数形)が使用される。



対象を「個体・作品・単位・種類・出来事(行為)」などのいずれかとしてひとつ取り出すことに関心があれば、「a + 名詞」の名詞形を用いることができるということです。例えば Give me an apple. の場合の an apple は、明らかに個体としてのリンゴという意味です。しかし、Give me a coffee, please. の a coffee はどう考えればいいでしょうか。a coffee と表現しているということは、話し手はそれが何であれ「ひとつを取り出す」ということに関心を持っているということです。個体としての単一化が a coffee を使う原理だとすれば、そのひとつの可能性は「コーヒー豆 | 粒ください」という状況でしょう。しかし、その場合には a coffee bean というのがふつうです。すると、a coffee は「個体」ではなく「単位」や「種類」が単一化の動機づけになっている表現と考えることができます。ファーストフードの店で、Give me a coffee. といえば、a cup of coffee (単位) のこと、コーヒー豆のみ売る専門店で Give me a coffee. といえば、「コーヒーの種類」ということになるでしょう。

一方、「0 + 名詞」の不可算形はいわゆる物質名や抽象名に典型的に用いられますが、単一化の対象にならないものが物質名詞や抽象名詞で表現するというものです。

物質名詞の例

air 空気、beef ビーフ、bread パン、calcium カルシウム、cloth 布、coffee コーヒー、concrete コンクリート、cotton 綿、glass ガラス、gold 金、hair 髪の毛、ice 氷、iron 鉄、milk 牛乳、money お金、noise 騒音、paper 紙、salt 塩、sand 砂、wood 材木

抽象名詞の例

anger 怒り、beauty 美、bravery 勇敢さ、courage 勇気、culture 文化、education 教育、faith 誠実、feeling 感情、hate 憎しみ、honesty 正直さ、information 情報、justice 正義、knowledge 知識、logic 論理、love 愛、misery 惨めさ、pain 痛み、peace 平和、pride 誇り、success 成功、sympathy 同情、thought 思想、trouble 問題、trust 信頼

強い傾向性として物質名や抽象的な概念は不可算形で表現します。物質の場合は、数より量を問題にするからです。water（水）は一滴でもバケツ一杯でも物質としての水に変わりません。ですから「水」は water と不可算形で表現します。一方、抽象概念の場合はそもそも実体がなく個体としてはとらえどころがないため、不可算形が一般的です。

以下は物質名詞と抽象名詞を使った表現例です。

物質名詞の例

- ・ Blood is thicker than water. 血は水より濃い。
- ・ Lead is heavier than iron. 鉛は鉄より重い。

抽象名詞の例

- ・ Logic will get you from A to B. Imagination will take you everywhere. [Albert Einstein]

論理はあなたを A から B に導くだろう。想像力は予測もできないところにあなたを連れていく。

- ・ Don't bring shame on your family. 家族に恥をかかせるようなことはするな。
- ・ Love means never having to say you're sorry. [映画 Love Story]

愛とは決して謝る必要のないものだ。

- ・ Read this poem with feeling. 感情を込めてこの詩を読んでみて。

だからといって、これらの名詞は必ず無冠詞かといえそうではありません。例えば、feeling にも a feeling や feelings という言い方があります。feeling は「感覚」「気持ち」という意味では不可算形で使いますが、「……という感じ」の場合は種類（どういう感じか）を含意するため、a feeling of… や a feeling that… の形の可算形で使います。また、いろいろな感じが入り混じった状況だと feelings も使います。

- ・ She regained feeling in her arms and legs. 彼女は手足の感覚を取り戻した。
- ・ There is a feeling of security among us. 僕らの間には安心感というものがある。
- ・ I have a feeling that he is an honest person. 彼は正直な人であるという感じがする。

- ・ She had feelings of hopelessness and helplessness. 彼女は絶望感と無力感を感じた。

ここでの a feeling や feelings は具体的な数に関心がある表現ではなく、「……というある感じ」あるいは「いろいろな……が混じった感じ」のように種類に関心が向けられた表現です。同様に、logic は「論理」という意味ですが、「ある論法」になれば a logic と表現できます。

「形が違えば意味も違う」は言語についての一般原則です。したがって、この原則は名詞形にも当てはまります。すなわち、不定冠詞を伴う名詞形か無冠詞の名詞形かで意味が異なります。a school (schools) だと「建物としての学校」、school だと「教育制度としての学校」がその典型例です。

- ・ The city built a school on the hill. 市は丘の上に学校を建てた。
- ・ She started school this April. この4月に彼女は入学した。

他にも次のような例を挙げるができます。

Give it a Try: 下線部に当たる日本語訳とのマッチングをしましょう。どっちがどっちでしょう？

- | | |
|---|----------|
| ・ I have <u>a radio</u> in my room. | ・ ラジオ |
| ・ They are communicating by <u>radio</u> . | ・ 無線 |
| ・ That is <u>a fine building</u> . | ・ 建設 |
| ・ There is plenty of <u>building</u> going on. | ・ 建物 |
| ・ She bought <u>a piano</u> yesterday. | ・ 一台のピアノ |
| ・ She wants to study <u>piano</u> in college. | ・ ピアノ科 |
| ・ I saw no <u>lights</u> there. | ・ 光 |
| ・ I saw no <u>light</u> there. | ・ 灯り |
| ・ I have no <u>questions</u> about your proposal. | ・ 疑義 |
| ・ I have no <u>question</u> about your proposal. | ・ 質問 |
| ・ Give me <u>an example</u> . | ・ 例 |
| ・ A teacher needs to lead by <u>example</u> . | ・ 模範 |

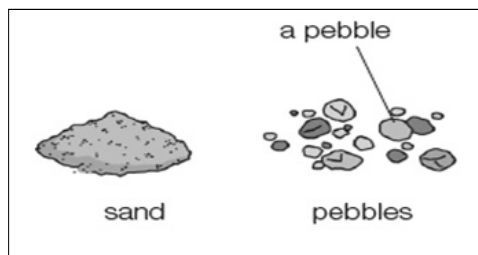
Give it a Try: 以下の表現の意味の違いを考えてみよう。

1. a serious talk vs. much talk
2. various noises vs. a lot of noise
3. a lot of experiences vs. much experience
4. a paper vs. paper

解答：a serious talk だと「真剣な会談」で、much talk は「たくさんやりとり（話し合い）」という意味合いです。ここでも何かを個体、種類、あるいは単位として取り出すことが可能であるという、単一化の原理がはたらいていることがわかります。同様に、various noises だと「種々の騒音」ということでいろいろな騒音が入り混じった状況を表現し、a lot of noise は「騒音（雑音）の量」に関心がいきます。また、a lot of experiences は個々の経験が多数連想されるし、much experience になると「経験の量」に関心が置かれます。paper は単なる「紙」ですが、a paper になると「ある形に文字をはめ込んだ形態」を含意し、「論文」や「新聞」という意味になります。

見た目も大切

対象が「個体」の場合には、仕切り感のある個体として意識されやすいかどうかで、単一化のはたらきは違ってきます。これは、知覚の問題であり、「見え方、数えやすさ (countability)」の問題であるといえます。例えば、「砂」の場合には、ひと粒ひと粒を数えることに関心が向きません。そこで、不可算形で sand と表現します。しかし、「小石」はひとつひとつが仕切り感のある個体として知覚されやすいことから、a pebble あるいは pebbles と表現されます。



この見え方と表現の仕方の関係については文化差もあるように思われます。日本人にとって「ごはん」はひと粒ひと粒が大切という意識があるように、「ひと粒のごはん」に関心がいきます。しかし、英語圏では「ごはん」は rice といいます。一方、「うどん、ヌードル」は英語では可算的な対象として扱われます。そこで、I like both rice and noodles. (ごはんとヌードルの両方が好きだ) のように表現の差が出てきます。

白髪も1本なら a gray hair、そして数本までなら gray hairs といいますが、全体が白髪であれば、可算の対象としての関心はなくなり、gray hair と表現します。

「衣服」にあたる英語の差別化：clothes、clothing、dress、wear

「衣服」には clothes と clothing があります。clothes は「体を覆う衣類一式」、clothing は「衣類」という意味です。clothing は an item of clothing と品目を話題にすることができますが、clothes は an item of clothes とは一般的にはいいません。以下のふたつを比較してみましょう。

- ・ I bought some clothing.
- ・ I bought some clothes.

clothing だと「スカーフ」や「シャツ」を単独で購入しても I bought some clothing. は成立します。しかし、clothes は「衣類一式」という意味でスカーフ1枚やシャツ1枚では clothes にはなりません。そこで、季節が変わったので「夏服を買いたい」という場合には、I want to buy summer clothes. が適切です。他にも類語として dress や wear が日常的に使われます。いずれも不可算名詞として扱います。casual dress は「カジュアルな服」ということで、特定のスタイル、特定の機会に身につける服の意味合いがあります。一方、wear は店で売られている服の場合、men's wear (男物の服) だとか children's wear (子ども物の服) のように wear を使います。

Give it a Try: 下記の英文を完成させるのに適切な語句を選びなさい。

[1] Tom keeps (1) (1. the snake, 2. a snake, 3. snakes, 4. snake) at home and thinks it is cute when (2) (1. a snake, 2. the snake, 3. snake, 4. snakes) sticks out its tongue. But, strangely enough, he has (3) (1. a fear, 2. fear, 3. the fear, 4. fears) of cats. The moments he sees or hears a cat, he runs away in (4) (1. a fear, 2. fear, 3. fears, 4. the fear) .

[2] Ann received (5) (1. pianos, 2. a piano, 3. the piano, 4. piano) for her birthday. It was a baby grand. The baby grand is (6) (1. the piano, 2. a piano, 3. pianos, 4. piano) often used in chamber music. It was a particularly appropriate gift because she plans to get her degree in (7) (1. a piano, 2. the piano, 3. piano, 4. pianos) in March.

[3] Computers are no longer difficult to use and are easily obtained. (8) (1. A computer, 2. The Computer, 3. Computer, 4. Computers) is (9) (1. great helps, 2. a great help, 3. great help, 4. the great help) when writing research papers. If you need (10) (1. a help, 2. helps, 3. help, 4. the help) with computers, just let me know. A friend of mine works for IBM.

解答：[1] 2. 2. 1. 2 [2] 2. 2. 3. [3] 1. 2. 3.

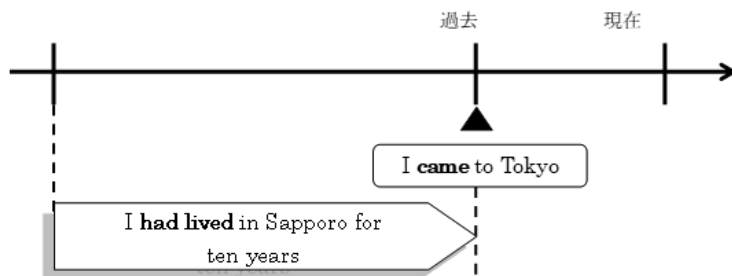
Unit 6 過去完了形を使って表現しよう

過去完了形は、「had + 過去分詞 (done)」の形であり、過去のある時点から更に前に起きた出来事について語る時に使います。過去完了形には、現在完了形と同じく「継続」「経験」「完了・結果」の3つの用法があります。以下、どのように使われるかを見て行きましょう。

学習のポイント：「継続」用法

大学の新生歓迎オリエンテーションでは、日本各地から集まってきた仲間と話が弾みます。あるクラスメートに、出身地はどこかを尋ねられたあなたは、「東京に来る前は10年間札幌に住んでいました」と英語で伝えます。

「私は東京に来る前に札幌に住んでいました」という文は、「東京に来た」と「10年間札幌に住んでいた」という2つの事柄から成り立っており、またこの文は「現在」話されています。これらの前後関係を時間軸で整理すると、東京に来たのは現在よりも過去、そして札幌に住んでいたのは東京に来た時よりもさらに過去ということになります。これらを図で示すと以下のようになります。



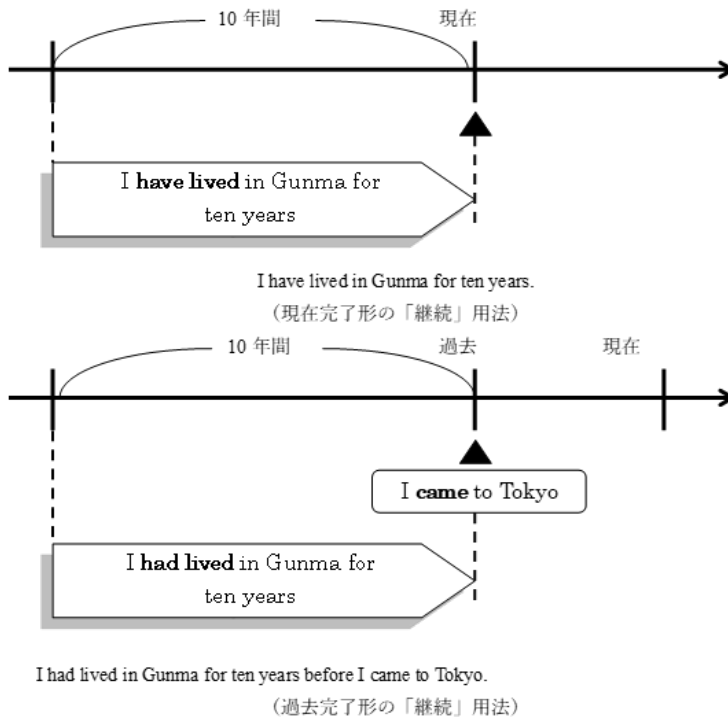
I had lived in Sapporo for ten years before I came to Tokyo.

(過去完了形の「継続」用法)

図に示されている通り、「10年間札幌に住んでいた」という事柄は、過去の一時点である「東京に来た」という事柄の前まで継続していたことです。

この文を英語にする場合は、まず基準となる時間を表現します。ここでは、「東京に来た」なので、I came to Tokyo. です。これよりも過去の事柄を表す際に登場するのが過去完了形です。先に見た通り、過去完了形は「had + 過去分詞 (done)」で表します。したがって、「札幌に住んでいた」の部分は、I had lived in Sapporo for ten years となります。両者を接続詞 before で結ぶと、I had lived in Sapporo for ten years before I came to Tokyo. となります。このように、「(過去のある時点まで) ~していた」という意味を表すのが、過去完了形の継続用法です。

この文を、現在完了形の I have lived in Gunma for ten years. (私は 10 年間群馬に住んでいます) と比較してみましょう。以下の図に示されているように、現在完了形の場合は、「現在」が基準となり、その時点まで継続していた事柄が示されています。一方、過去完了形の場合は、基準点が過去のある時点にスライドしており、その時点まで継続していた事柄が過去完了形によって示されています。過去完了形を使いこなす上でのポイントは、それぞれの出来事がどのような時間関係になっているかを正確に掴むことです。



Exercise 1: 日本語に合うように、下線部を適切な形で埋めなさい。

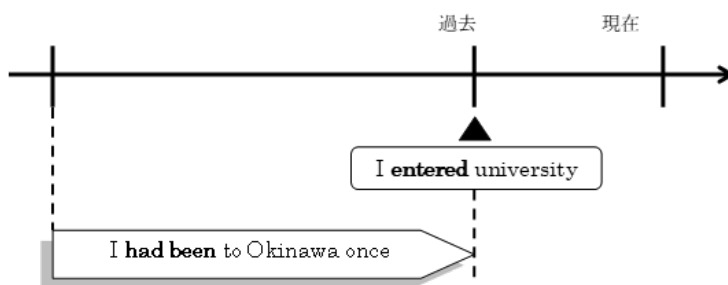
(1) 彼らが結婚した時、知り合ってから 10 年になっていました。
They _____ (know) each other for ten years when they _____ (get) married.

(2) 私がお見舞いに行った時、武は 2 週間も入院していました。
Takeshi _____ (be) in the hospital for two weeks when I _____ (visit) him.

(3) 東京に引っ越してくる前、私は 8 年間札幌に住んでいました。
I _____ (live) in Sapporo for eight years before I _____ (move) to Tokyo.

学習のポイント: 「経験」用法

続いて過去完了形の「経験」用法を見て行きましょう。経験用法は、「(過去のある時点で) ~ したことがあった」という意味を表現します。例えば、沖縄出身の友達に、沖縄に行ったことがあるかを訊かれ、「大学に入る前に、一度沖縄に行ったことがありました」と言う状況を考えてみましょう。この文を言っているのは現在です。それに対して「大学に入った」のは過去、「沖縄に一度行った」のは、それよりも更に過去の事柄です。これらを整理したのが次の図です。



I had been to Okinawa once before I entered university.

(過去完了形の「経験」用法)

では、この文を英語にしていきたいと思います。まずは基準点となる「大学に入った」という部分を、I entered universityとします。これよりも過去の出来事である「沖縄に一度行った」は、過去完了形を使ってI had been to Okinawa onceとします。両者を、before を使って接続すると、I had been to Okinawa once before I entered university. となります。このように、過去のある時点で経験していたことを表すのが過去完了形の経験用法です。

Give it a Try: 日本語に合うように、下線部を適切な形で埋めなさい。

(1) 私は昨年行った時には、既に3回ハワイに行ったことがありました。

I _____ (be) to Hawaii three times when I _____ (go) there last year.

(2) 私は大学に入るまで、1度も外国人と話したことがありませんでした。

I _____ (speak) to a foreigner before I _____ (enter) university.

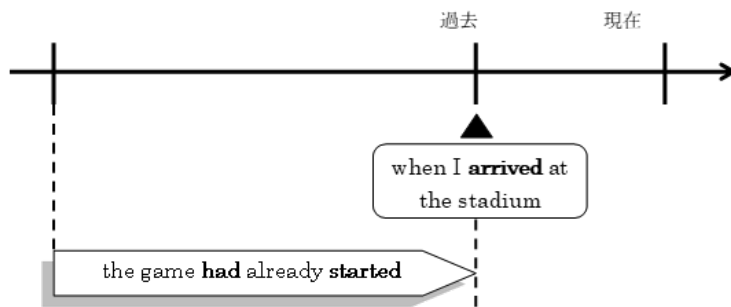
(3) 私は美しい虹を見ました。それまでそれほどきれいな虹を見たことがありませんでした。

I _____ (see) a beautiful rainbow. I _____ (see) such a beautiful rainbow before.

学習のポイント: 「完了・結果」用法

東京での大学生生活をスタートさせたあなたは、野球部に入りました。昨日は他大学との試合がスタジアムで開催されました。会場へ向け家を出たあなたは、電車に乗った後に財布を忘れたことに気づき、一旦引き返します。試合開始に間に合うよう急ぎましたが、残念無念、スタジアムに着いた時には試合はもう始まっていました。

この昨夜の出来事を友達に報告するとしましょう。「私がスタジアムに着いた時、試合はすでに始まっていました」という文になるはずですが、発話時点は現在で、「スタジアムに着いた」のは過去です。「試合が始まった」のは、それよりも更に前の時点です。これらの出来事を整理したのが以下の図です。



When I arrived at the stadium, the game had already started.

(過去完了形の「完了・結果」用法)

では、この文を英語にしていきましょう。基準点となるのは、「私がスタジアムに着いた時」なので、when I arrived at the stadium となります。この時点で既に試合は始まっていたので、過去完了形を使い the game had already started とします。両者を結びつけると、The game had already started when I arrived at the stadium. となります。このように、「(過去のある時点で) ~してしまっていた」という意味を表すのが、過去完了形の「完了・結果」用法です。尚、上の文は、When I arrived at the stadium, the game had already started. のように、節の順序を逆にしても構いません。

以上、過去完了形の「継続」「経験」「完了・結果」用法を見てきましたが、いずれの用法においても共通しているのは、過去の一時点の出来事よりも前に別の事柄が起きたというイメージです。

Give it a Try: 日本語に合うように、下線部を適切な形で埋めなさい。

(1) 駅に着いた時、終電は既に出発していました。

The last train _____ (leave) when I _____
(arrive) at the station.

(2) 警官が駆けつけた時には、既にその男は逃げてしまっていました。

When the police _____ (arrive), the man _____
(run away).

(3) 君が電話をかけた時には、私は既に寝てしまっていました。

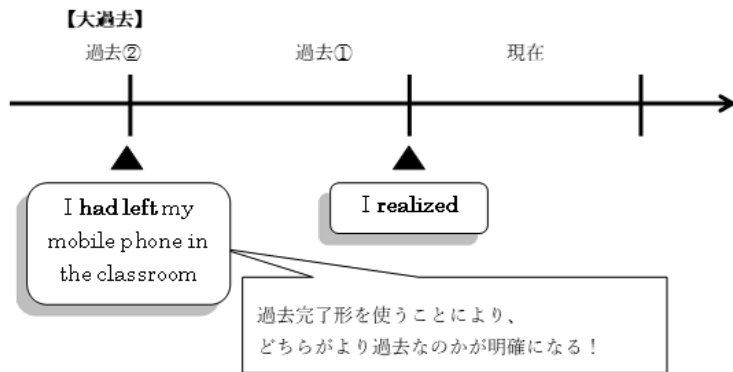
I _____ (go) to bed when you _____
(call) me.

学習のポイント: 「2つの出来事の時間差を明確にする」過去完了形

過去完了形には、これまで見てきた3つの用法に加えて、もう1つ大切な機能があります。それは、「単に2つの出来事の時間差を表現する」というものです。

例えば、「私は教室に携帯電話を置き忘れたことに気づきました」という状況を考えてみましょう。これを英語にすると、I realized (that) I had left my mobile phone in the classroom. という文になります。ここで、この文を構成する「気づく」と「携帯電話を忘れる」という出来事を比べてみましょう。

「気づく」と「携帯電話を置き忘れる」は、ともに現在から見て過去に起きた出来事ですが、もちろん携帯電話を置き忘れたのはそれに気づく前のことです。したがって、この文では両者の時間差を明確にするために、過去のある時点よりもさらに過去の出来事（「大過去」といった言い方もします）を過去完了形で表現しています。このように、「継続」「経験」「完了・結果」のいずれの意味でもなく、単にある出来事が過去のある時点よりも前に起きたということを明確にするために、過去完了形は使われるのです。



I realized that I had left my mobile phone in the classroom.

(2つの出来事の時間差を明確にする過去完了形)

Give it a Try: 日本語に合うように、下線部を適切な形で埋めなさい。

(1) 私は1週間前に失くした時計を見つけました。

I _____ (find) the watch which I _____

(lose) a week before.

(2) 私は、父が誕生日祝いにくれた本を失くしました。

I _____ (lose) the book which my father _____

(give) to me for my birthday.

(3) 私は宿題を終えた後、買い物に行きました。

I _____ (go) shopping after I _____

(finish) my homework.

【注意】過去完了形の代わりに過去単純形を使うことができる場合

2つの出来事を、起こった通りの順番で述べる場合は、どちらも過去・単純形にします。

例：My father gave a book to me and I lost it. 父が本を買った → 私が失くした

さらに、after や before、until、till などの接続詞があり、文脈から時の前後関係が明らか場合は、過去完了形の代わりに過去・単純形が使われることが多いです。したがって、あえて両者の時間差を明確にしたいという場合に過去完了形が使われるのです。

例：After Jim did (had done) his homework, he went to bed.

ただし、過去完了形の代わりに過去・単純形を使うことができるのは、大過去の場合のみですので、「完了・結果」「経験」「継続」の用法には適用できません。